

ネパールの学校 再建を

地震で全半壊、資金募る

東京都市大
准教授ら

昨年4月のネパール大地震で全半壊した現地の学校を再建するため、ネパール出身で東京都大環境学部(横浜市都筑区)准教授のリジャール・ホーム・バハドゥルさん(46)が支援を呼びかけている。リジャールさんの活動に共感した環境ジャーナリストで同大教授の枝広淳子さん(53)も、インターネットを通じて資金を募る「クラウドファンディング」を実施中だ。

(加藤干城)



リジャールさんはネパールの首都・カトマンズの北西約50キロに位置し、標高1500メートルの山中にあるサツレ村の出身。母国の発展には教育が大切と考え、2003年に、日本でNPO法人「バル・ピパル奨学基金」を設立した。日本人の協力で資金を集めて同村に学校を建設し、運営している。



●昨年4月の地震で半壊したサツレ村の学校(京都マラソンを完走した枝広さん(右)の応援に駆けつけたリジャールさん(いずれもリジャールさん提供)

ネパール大地震では約9000人が亡くなり、多くの建物が倒壊するなどした。石や粘土で建てられた同村の約60軒の民家は大半が被害を受け、村民はトタ屋根やブルーシートを張った仮設小屋で暮らしているという。

日本からの支援で建設された村の学校も被害を受け、教室・教員室全17室のうち、国際協力機構(JICA)の経済支援と技術指導で建てられた2室を除く15室が全半壊した。4室は政府支援による再建を見込んでいるが、残る11室は独自に修復・再建が必要で、全てを再建するには日本円で約900万円かかるという。

村の小中高校生約250人は現在、廃材などを利用した簡易な仮設教室で勉強しており、修復・再建のめどが立たないと、学校閉鎖の可能性もある。リジャールさんは当面、40人が勉強できるコンクリート製の教室1室を建設したいと考えており、そのためには日本円で約150万円が必要だという。

リジャールさんの活動を通じて村の実情を知った枝広

さんは、2月21日に開催された京都マラソンに参加し、150万円の募金を呼びかけた。枝広さんは過去にも3回、フルマラソンでのチャリティーランを実施し、完走しているという。「走るのが大好きなので、大好きなことを通じて、寄付金を集め、教室が建てられたら幸せだ」と話す。

リジャールさんは「目標額の半分は集まったが、まだ足りない。現地は6月には雨期に入る。それまでにコンクリート製の教室を建てたい。ぜひ協力してほしい」と訴えている。

詳細は「バル・ピパル奨学基金」のホームページ(<http://barpepal.com/>)、クラウドファンディングのサイト(<http://japangiving.jp/c/13396>)。

●この記事・写真等は読売新聞東京本社の許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。